

# 3 年

## I かけ算 (教科書:p.16~30 時期:4 月 配時:7 時間)

### 〔単元の目標〕

乗法に関して成り立つ性質を理解し、乗数または被乗数が 10 の場合や 10 より大きい場合の計算に生かすことができる。また、乗数または被乗数が 0 の場合の乗法の意味と、その積について理解する。

**知** 乗法に関して成り立つ性質について理解する。また、乗数や被乗数が 10 や 0 の場合の乗法の積について理解する。

**考** 既習事項や乗法の意味から、乗法に関して成り立つ性質を見いだすとともに、それをもとに乗数や被乗数が 10 の場合や 10 より大きい場合の積の求め方を考え、説明することができる。

**主** 乗法の計算の仕方について、乗法に関して成り立つ性質を生かして考えようとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
I かけ算のきまり (教 p.16~26)	1	<p>〔アプローチ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教 p.16~17 上部の、乗法九九の表の一部を切り取ったものを見て、表のどこに当てはまるか考える。</li> <li>・ 乗数が 1 増減すると積は被乗数分だけ増減することや、乗法の交換法則について理解する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 乗数が 1 増減すると積は被乗数分だけ増減することや、乗法の交換法則について理解している。</p> <p><b>考</b> 乗法に関して成り立つ性質を用いて、<math>7 \times 4</math> の答えの求め方を考え、説明している。</p> <p><b>主</b> 乗法に関して成り立つ性質を、<math>7 \times 4</math> の答えの求め方に生かそうとしている。</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被乗数や乗数を分けて計算しても積は同じになること(乗法の分配法則)を理解する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 乗法の分配法則が成り立つことを理解している。</p> <p><b>考</b> <math>7 \times 6</math> の答えの求め方を、分配法則の考え方をもとにして考え、説明している。</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乗数や被乗数が 10 の場合の乗法の計算原理や方法を理解し、計算する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 乗数や被乗数が 10 の乗法の計算の仕方を理解している。</p> <p><b>考</b> 乗法に関して成り立つ性質をもとに、乗数や被乗数が 10 の乗法の計算の仕方を考え、説明している。</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乗法に関して成り立つ性質を活用して、乗数が 10 より大きい場合の乗法の計算の仕方を</li> </ul>	<p><b>考</b> 乗法に関して成り立つ性質をもとに、乗数が 10 より大きい場合の乗法の計算の仕方を考え、説</p>

		考える。	<p>明している。</p> <p><b>主</b> 乗数が10より大きい場合の乗法の多様な計算方法について、それぞれの考えのよさを認めたり、関連付けたりしながら、話し合っている。</p>
	5	・乗数や被乗数が分からないときは、九九表を使ったり、九九で順に数を当てはめたりすれば、その数を見つけることができることを理解する。	<p><b>知</b> 九九表を使ったり、九九で順に数を当てはめたりして、乗数や被乗数を求めることができる。</p> <p><b>考</b> 乗数、被乗数の求め方をかけ算のきまりをもとにして考え、説明している。</p>
2 0のかけ算 (教 p.27~28)	6	・乗数や被乗数が0の場合について、乗法の意味を理解するとともに、その積が常に0であることが分かる。	<p><b>知</b> 乗数や被乗数が0の乗法の式表示とその意味、積について理解している。</p> <p><b>考</b> 乗数や被乗数が0の乗法の場面を式に表したり、式から場面を考えて説明したりしている。</p>
たしかめ問題 (教 p.29~30)	7	・基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p><b>知</b> 乗法に関して成り立つ性質を理解している。</p> <p><b>考</b> 乗数が10より大きい場合の乗法の計算の仕方を、分配法則をもとにして考えている。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。</p>
ふくろう先生の なるほど算数教室Ⅰ (教 p.31)	-	・乗法九九の表の中から、和が100になる数を見つける活動を通して、乗法に対する興味・関心を高める。	<p><b>主</b> 乗法九九に関する性質を調べることに主体的に取り組み、その性質の面白さに気づいている。</p>

## 2 たし算とひき算の筆算 (教科書:p.32~43 時期:4~5 月 配時:8 時間)

### 〔単元の目標〕

3位数や4位数の加法及び減法について、既習の2位数などの計算をもとに計算の仕方を考え、筆算で計算することができる。

**知** 4位数までの加法及び減法の筆算の仕方を理解し、計算することができる。

**考** 2位数などの計算をもとに、4位数までの加法及び減法の筆算の仕方を考え、説明することができる。

**主** 加法及び減法の筆算の仕方について、既習の計算を生かして考えようとしたり、発展的に桁数の多い計算などについて考えようとしたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 たし算の筆算 (教 p.32~36)	1	<p>〔アプローチ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教p.32 の場面をもとに、既習の計算を振り返り、数が大きくなったときの計算に対する見通しをもつ。</li> <li>繰り上がりが1回の3位数までの加法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 繰り上がりが1回の3位数までの加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。</p> <p><b>考</b> 既習の加法の計算をもとに、3位数までの加法の筆算の仕方を考え、説明している。</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>一の位と十の位が繰り上がる3位数までの加法の筆算の仕方を理解し、計算する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 一の位と十の位が繰り上がる3位数までの加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>4位数までの加法の筆算の仕方を理解し、計算する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 4位数までの加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。</p> <p><b>主</b> 加法の学習をもとに、減法の計算はどのようになるのかと新しい問題を見いだしている。</p>
2 ひき算の筆算 (教 p.37~41)	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り下がりが1回の3位数までの減法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 繰り下がりが1回の3位数までの減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。</p> <p><b>考</b> 既習の減法の計算をもとに、3位数までの減法の筆算の仕方を考え、説明している。</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>百の位と十の位から繰り下がる3位数までの減法の筆算の仕方を理解し、計算する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 百の位と十の位から繰り下がる3位数までの減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>被減数に空位があり、波及的に繰り下がる3位数までの減</li> </ul>	<p><b>知</b> 被減数に空位があり、波及的に繰り下がる3位数までの減法</p>

		法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	<p>の筆算の仕方を理解し、計算できる。</p> <p><b>考</b> 波及的に繰り下がる減法の筆算の仕方を、図などを用いて説明している。</p>
	7	・ 4位数までの減法の筆算の仕方を理解し、計算する。	<b>知</b> 4 位数までの減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。
たしかめ問題 (教 p.42～43)	8	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p><b>知</b> 4 位数までの加法及び減法の計算が筆算でできる。</p> <p><b>考</b> 波及的に繰り下がる減法の計算原理を、筋道立てて考えている。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。</p>

暗算 (教 p.44)	1	・ 2位数どうしの加法と減法の暗算をする。	<p><b>知</b> 2 位数どうしの加法や減法の計算が暗算でできる。</p> <p><b>考</b> 数の構成に着目して、2 位数どうしの加法や減法の暗算の仕方を考え、説明している。</p>
ふくろう先生の なるほど算数教室2 (教 p.45)	-	・ 魔方陣づくりを通して、加法や減法の計算に習熟し、数や計算への興味・関心を高める。	<b>主</b> 魔方陣をつくることにより、数の不思議さに興味をもち、進んで取り組んでいる。

### 3 ぼうグラフと表 (教科書:p.46～63 時期:5 月 配時:10 時間)

#### 〔単元の目標〕

身の回りの事象について、観点を決めて資料を分類整理し、表や棒グラフに表したり、資料の特徴を考察したりすることができる。

**知** 観点を決めて資料を分類整理し、表や棒グラフに表したり、読み取ったりすることができる。

**考** 表や棒グラフを用いて資料の特徴を考察し、見いだしたことを根拠とともに説明することができる。

**主** 資料を分類整理して表や棒グラフに表すことのよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 整理のしかた (教 p.46～48)	1	〔アプローチ〕 ・ 教 p.46 の場面を見て、「ふれあい遊び」で行う遊びの決め方について考える。	<b>知</b> 「正」の字を用いて数量を調べ、表に整理することができる。 <b>主</b> 「正」の字を用いて数量を調べたり、表に整理したりするよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。
		・ 身近な事象について、「正」の字を用いて数量を調べる。また、その結果を表に表して整理し、考察する。	
2 ぼうグラフ (教 p.49～58)	2	・ 棒グラフの特徴や読み方を理解し、資料の特徴を読み取る。また、棒グラフで表すよさや表し方の工夫について理解する。	<b>知</b> 棒グラフの仕組みや読み方について理解し、読み取ることができる。 <b>考</b> 棒グラフのよさや表し方の工夫について考え、説明している。
	3	・ 横向きの棒グラフや1目盛りの大きさが1でない棒グラフの読み方を理解する。また、時系列の順に表した棒グラフのよさを理解する。	<b>知</b> 1目盛りの大きさに留意して棒グラフを読み取ることができる。 <b>考</b> 時系列の順に表した棒グラフのよさについて考え、説明している。
	4 5	・ 棒グラフの表し方を理解し、資料を棒グラフに表す。	<b>知</b> 棒グラフの表し方を理解し、資料をもとに棒グラフをかくことができる。 <b>考</b> 資料の最大値とグラフ用紙の大きさをもとに、グラフの1目盛りの大きさを決定している。
	6	・ 目盛りのとり方に気をつけて、正しく棒グラフを読み取る。	<b>知</b> 目盛りのとり方によって、棒グラフの見え方が変わることを理解している。 <b>考</b> グラフから読み取った内容を批

			判的に考察している。
	7	・ 観点を決めて資料を分類整理し、表や棒グラフに表し、考察する。	<p><b>考</b> 観点を決めて資料を整理し、表やグラフをもとに資料の特徴を考察している。</p> <p><b>主</b> いろいろな観点で資料を整理したり、表やグラフをもとに多面的に考察したりしようとしている。</p>
3 表やグラフのくふう (教 p.59~60)	8	・ 一次元の表をもとに二次元の表をつくり、資料の特徴を読み取る。また、一次元の表と比較し、二次元の表のよさを捉える。	<p><b>知</b> 二次元の表の読み方や表し方、そのよさについて理解している。</p> <p><b>考</b> 資料を二次元の表にまとめ、資料の特徴を考察している。</p>
	9	・ 複数の棒グラフを組み合わせたグラフの読み方や表し方を理解する。	<p><b>知</b> 複数の棒グラフを組み合わせたグラフの読み方やかき方、そのよさについて理解している。</p> <p><b>考</b> 二次元の表を、複数の棒グラフを組み合わせたグラフにまとめ、資料の特徴を考察している。</p>
たしかめ問題 (教 p.61~63)	10	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p><b>知</b> 棒グラフを読み取ったり、表したりすることができる。</p> <p><b>考</b> グラフから資料の特徴を考察し、見いだしたことを根拠と共に説明している。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。</p>

読み取る力をのばそう (教 p.64)	1	・ 身近な事象について、表された表やグラフを活用して資料を完成させ、その特徴を読み取る。	<b>考</b> 資料を表や棒グラフに表して、その特徴を読み取ったり、批判的に考察したりしている。
ふくしゅう (教 p.65)	-	・ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-

## 4 時こくと時間 (教科書:p.66~73 時期:5月 配時:5時間)

### 〔単元の目標〕

時刻や時間の求め方を時計の文字盤などをもとに考え、求めることができる。また、短い時間の単位「秒」について理解し、秒を用いて時間を表すことができる。

**知** 時刻や時間の求め方を理解し、日常生活で必要な時刻や時間を求めることができる。また、短い時間の単位「秒」の意味や「分」との関係を理解し、秒を用いて時間を表すことができる。

**考** 時間の単位や正時などに着目し、時刻や時間の求め方を考え、説明することができる。

**主** 時刻や時間の求め方、短い時間の表し方を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 時こくや時間の もとめ方 (教 p.66~70)  * 時こくや時間の もとめ方 (教 p.68)	1	<p>〔アプローチ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教p.66 の場面をもとに、時刻や時間の既習事項を振り返り、本単元の学習の見通しをもつ。</li> <li>ある時刻から一定時間前後の時刻を求める。</li> </ul> <p>* 筆算形式での時刻の計算の仕方を知る。</p>	<p><b>知</b> ある時刻から一定時間前後の時刻を求めることができる。</p> <p><b>考</b> 時計の文字盤などをもとに、ある時刻から一定時間前後の時刻の求め方を考え、説明している。</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>ある時刻からある時刻までの時間を求める。</li> </ul>	<p><b>知</b> ある時刻からある時刻までの時間の求め方を理解し、求めることができる。</p> <p><b>主</b> 時計の文字盤や正時をもとに時刻を求めたことを振り返り、時間の求め方に生かそうとしている。</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの時間をたした時間やひいた時間を求める。</li> </ul>	<p><b>知</b> 2つの時間をたした時間やひいた時間の求め方を理解し、求めることができる。</p>
2 短い時間 (教 p.71)	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>短い時間の単位「秒」や、1分=60秒の関係について理解し、分と秒を用いて時間を表す。</li> </ul>	<p><b>知</b> 1分=60秒の関係を理解している。</p> <p><b>主</b> 短い時間の表し方を日常生活に生かそうとしている。</p>
たしかめ問題 (教 p.72~73)	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 時刻や時間を求めることができる。また、1分=60秒の関係を理解している。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返</p>

			っている。
--	--	--	-------

\*算数たまたばこ



## 5 わり算 (教科書:p.74~86 時期:6 月 配時:7 時間)

### 〔単元の目標〕

除法の意味を具体物の操作をもとに理解し、場面を除法の式に表すことができる。また、除法の答えの求め方を具体物の操作や乗法をもとに考え、九九1回でわりきれる除法の計算をすることができる。

**知** 除法の意味(等分除、包含除)を理解し、場面を式に表して、乗法九九を用いて答えを求めることができる。

**考** 数量の関係や分け方に着目し、等分除、包含除の意味や答えの求め方を、具体物の操作や既習の乗法、減法や図をもとに考え、説明することができる。

**主** 除法の意味や計算の仕方について、具体物の操作や乗法などから捉えようとする。また、身の回りから除法の場面を見いだすなど、除法の計算を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 1人分は何こ (教 p.74~78)	1	<b>〔アプローチ〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>教 p.74 の場面をもとに、同じ数や量ずつに分ける計算に対する興味・関心を高め、本単元の学習の見通しをもつ。</li> <li>具体的な操作などを通して、等分除の意味を理解し、その場面を除法の式に表せることを知る。</li> </ul>	<b>考</b> 等分したときの1つ分の数を求めるとき(等分除)は、除法の式に表すことを理解している。 <b>主</b> 数量の関係に着目し、等分除の意味や答えの求め方を、具体物を用いて考え、説明している。
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>等分除の答えは乗法九九を用いて求められることを理解する。</li> </ul>	<b>知</b> 等分除の答えは、乗法九九を用いて求められることを理解し、求めることができる。 <b>考</b> 等分除の意味から、乗法九九を用いて答えを求める方法を考え、説明している。
2 何人に分けられる (教 p.79~83)	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な操作などを通して、包含除の意味を理解する。また、包含除の場合も、場面を除法の式に表せることを理解する。</li> </ul>	<b>知</b> 等分したときのいくつ分の数を求めるとき(包含除)は、除法の式に表すことを理解している。 <b>主</b> 等分除の意味や答えの求め方を、具体物や図、式を用いて考えたことを振り返り、包含除でもそれらを用いようとしている。
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>包含除の場面でも、答えは乗法九九を用いて求められることを理解し、除法の計算をする。</li> </ul>	<b>知</b> 包含除の答えも、乗法九九を用いて求められることを理解し、求めることができる。

	5	・ 具体的な場面の考察を通して、等分除、包含除と乗法との関係について理解する。	<p><b>知</b> 除法の用いられる場面や意味を理解している。</p> <p><b>考</b> 等分除、包含除の意味や違いを、既習の乗法や図をもとに考え、説明している。</p>
3 0や1のわり算 (教 p.84)	6	・ 0をわったり、1でわったりする計算の意味を理解し、計算する。	<p><b>知</b> 被除数が0の場合や除数が1の場合の除法の意味を理解している。</p> <p><b>考</b> 被除数が0の除法の計算の意味を考え、説明している。</p>
たしかめ問題 (教 p.85～86)	7	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p><b>知</b> 乗法九九1回適用の除法の計算ができ、それを用いて問題を解決することができる。</p> <p><b>考</b> 式を読み取り、等分除や包含除の場面を問題文に表すことができる。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。</p>
おうちで算数 (教 p.86)	-	・ 生活の中でいろいろな物を分けるときに、除法を活用する。	-

読み取る力をのばそう (教 p.87)	1	・ 「木の数」と「木と木の間の数」の関係に着目し、図をもとに規則性を見いだして問題を解決する。	<p><b>考</b> 植木算の場面で、木の数と木と木の間の数の関係を、図をもとに見いだしている。</p>
------------------------	---	---	---

## 6 あまりのあるわり算 (教科書:p.88~99 時期:6 月 配時:7 時間)

### 〔単元の目標〕

あまりのある場合の除法について、計算の仕方を既習の除法と関連付けて考え、場面を式に表して計算することができる。また、場面に合わせてあまりを適切に処理することができる。

**知** 「あまり」の意味、あまりと除数の大小関係、及びあまりのある除法の計算の仕方を理解し、計算することができる。

**考** 既習の除法と関連付けて、あまりのある除法でも乗法九九を使って答えが求められることを考え説明したり、あまりの処理の必要な問題場面で、あまりの処理の仕方について考え説明したりすることができる。

**主** あまりのある除法の意味や計算の仕方について、既習の学習を生かして考えようとする。また、あまりのある除法の場面を身の回りから見いだすなど、生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
Ⅰ あまりのあるわり算 (教 p.88~94)	1	<p>〔アプローチ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教 p.88 の場面をもとに、既習のわり算を振り返り、被除数を変えたわり算に対する興味・関心を高め、本単元の学習の見通しをもつ。</li> <li>乗法九九を1回適用する除法(包含除)で、あまりの意味と計算の仕方を理解する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 「あまり」、「わりきれない」、「わりきれる」の用語とそれらの意味や、あまりのある除法の式表示と計算の仕方を理解している。</p> <p><b>考</b> 数量の関係に着目し、既習の除法と関連付けて、あまりのある包含除でも乗法九九を使って答えが求められることを見だし、説明している。</p> <p><b>主</b> あまりのある除法の意味や計算の仕方について、既習の学習を生かして考えようとしている。</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>あまりと除数の大小関係について理解する。</li> </ul>	<p><b>知</b> あまりが除数より小さくなることを理解している。</p> <p><b>考</b> 図を用いて、あまりと除数の大小関係について説明している。</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>等分除の場面において、あまりの意味や計算の仕方を理解する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 等分除の場面の式表示と計算の仕方を理解している。</p> <p><b>考</b> 数量の関係に着目し、既習の除法と関連付けて、あまりのある等分除でも乗法九九を使って答えが求められることを見だし、説明している。</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>あまりのある除法の答えの確</li> </ul>	<p><b>知</b> あまりのある除法の答えの確か</p>

		かめ方を理解する。	め方を理解している。 <b>考</b> 被除数、除数、あまりの関係に着目して、確かめの仕方を説明している。
2 あまりの考え方 (教 p.95~97)	5 6	・ 問題場面に即してあまりの処理の仕方を考え、問題を解決する。	<b>知</b> 問題場面に応じたあまりの処理の仕方を理解している。 <b>考</b> あまりの処理の必要な問題場面で、あまりの処理の仕方を考え、説明している。
たしかめ問題 (教 p.98~99)	7	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<b>知</b> あまりのある除法の計算ができる。また、あまりのある除法の確かめの仕方を理解している。 <b>考</b> あまりの処理の必要な問題場面で、問題場面に即してあまりの処理の仕方について説明している。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。

プログラミングに ちょうせん!① (教 p.100~101)  * 身の回りの プログラミング	-	・ ゲームに勝つためのおはじきの取り方について考える活動を通して、場合に合わせて行動を変える条件分岐の考え方を理解する。 * 生活の中でプログラムが使われている場面を知り、興味・関心を高める。	<b>知</b> 場合に合わせて行動を変える条件分岐の考え方を理解している。 <b>考</b> おはじきを後に取り取る人の取り方や、あまりのある除法で学習したことをもとに、相手の取った個数に合わせた取り方を考え、説明している。
--	---	---	--

## 7 円と球 (教科書:p.102~114 時期:6~7月 配時:8時間)

### 〔単元の目標〕

円と球の特徴を見だし、コンパスを用いて円をかいたり、長さを写し取ったりすることができる。

**知** 円と球の中心、半径、直径の意味やそれらの関係を理解するとともに、コンパスの使い方を理解し、コンパスを用いて円をかいたり、長さを写し取ったりすることができる。

**考** 中心から等距離にある点の集まりが円になることや、円の半径や直径が無数にあること、半径と直径の長さの関係をみだすことができる。

**主** 身の回りから円や球を見つけようとする。また、コンパスなどを用いた模様づくりをたのしみ、円のもつ美しさに気づく。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 円 (教 p.102~111)  * 「直」「径」の意味 (教 p.107)	1	〔アプローチ〕	<b>知</b> 「円」、円の「中心」、「半径」の用語とそれらの意味を理解している。
	2	・ 教 p.102 の場面をもとに、公平に輪投げをすることができる並び方について話し合い、1点から等距離にある点に対する興味・関心を高める。 ・ 1点から等距離にある点は多数存在し、その点の集まりがまるい形になることを理解する。 ・ 「円」、円の「中心」、「半径」の用語とそれらの意味を理解する。	<b>考</b> 1点からの距離に着目し、等距離にある点の集まりがきれいなまるい形になることを見いだしている。 <b>主</b> 身の回りから円を見つけようとしている。
	3	・ 円の半径は無数にひけて長さは全て等しいことを理解するとともに、円の「直径」の用語とその意味や、半径と直径の関係を理解する。 * 「直」、「径」の漢字の意味を知り、「直径」の用語の理解を深める。	<b>知</b> 円の半径は無数にひけて、長さが全て等しいことを理解している。また、円の「直径」の用語とその意味や半径と直径との関係を理解している。
	4	・ コンパスの使い方を理解し、決められた大きさの円をかく。	<b>知</b> コンパスを用いた円のかき方を理解し、決められた大きさの円をかくことができる。
	5	・ 円を使ったいろいろな模様をかくことを通して、コンパスの使い方に慣れるとともに、模様の	<b>知</b> コンパスを用いて例示の模様やいろいろな模様をかくことができる。

		美しさを味わう。	<b>主</b> 円を使った模様をかく活動をたのしみ、その美しさを感じている。
	6	・コンパスを用いて長さを写し取ったり、2点からそれぞれ決まった長さにある点の位置を見つけたりし、コンパスの有用性の理解を深める。	<b>知</b> コンパスで長さを写し取ったり、同じ長さに区切ったりすることができる。 <b>主</b> コンパスの有用性に気づいている。
2 球 (教 p.112)	7	・円に関連して「球」を知り、その基本的な性質を理解する。	<b>知</b> 球の概念や性質と、球に関する用語の意味を理解している。
たしかめ問題 (教 p.113~114)	8	・基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<b>知</b> 円や球に関する用語や特徴を理解している。また、円の作図ができる。 <b>考</b> 円や球の半径と直径の長さの関係に着目し、いろいろな長さを見いだしている。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。
ふくしゅう (教 p.115)	-	・復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-

\*算数たまたばこ

## 8 かけ算の筆算 (教科書:p.116~131 時期:9月 配時:13時間)

### 〔単元の目標〕

2、3位数に1位数をかける乗法について、既習の乗法などをもとにして考え、筆算で計算することができる。

**知** 2、3位数×1位数の計算の仕方や筆算の仕方について理解し、計算することができる。また、乗法の結合法則について理解し、それを用いて計算を工夫することができる。

**考** 数の構成に着目し、2、3位数×1位数の計算の仕方を、既習の乗法を用いて考え、説明することができる。

**主** 1位数をかける乗法の計算について、既習の学習を生かして考えようとしたり、数の範囲を拡張し、桁数の多い計算を考えようとしたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 何十、何百のかけ算 (教 p.116~118)	1	〔アプローチ〕	<b>知</b> 何十、何百×1位数の計算の仕方を理解し、計算できる。 <b>考</b> 10や100を単位とした数の見方に着目し、何十、何百×1位数の計算の仕方を考え、説明している。
	2	・ 教 p.116 の場面をもとに、既習の計算を振り返り、被乗数が大きくなったときの計算に対する見通しをもつ。 ・ 何十、何百×1位数の乗法の計算原理や方法を理解し、計算する。	
2 (2けた)×(1けた)の筆算 (教 p.119~123)	3	・ 2位数×1位数で、部分積に繰り上がりのない場合の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	<b>知</b> 2位数×1位数の計算の仕方や筆算の仕方を理解し、計算できる。 <b>考</b> 数の構成に着目し、2位数×1位数の計算の仕方を、既習の乗法を用いて考え、説明している。 <b>主</b> 2位数×1位数の計算の仕方を、既習事項を使って考えようとしている。
	4		
	5	・ 2位数×1位数で、部分積に繰り上がりのある場合の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	<b>知</b> 2位数×1位数で、部分積に繰り上がりのある場合の筆算の仕方を理解し、計算できる。
	6	・ 2位数×1位数で、部分積が百の位に繰り上がる場合の筆算の仕方を理解し、計算する。	<b>知</b> 2位数×1位数で、部分積が百の位に繰り上がる場合の筆算の仕方を理解し、計算できる。 <b>主</b> 2位数×1位数の学習をもとに、3位数×1位数もできない

			かと新しい問題を見いだしている。
3 (3けた)×(1けた)の筆算 (教 p.124~126)	7	・ 3位数×1位数で、部分積に繰り上がりのない場合の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	<p><b>知</b> 3位数×1位数の計算の仕方や筆算の仕方を理解し、計算できる。</p> <p><b>考</b> 数の構成に着目し、3位数×1位数の計算の仕方を、既習の乗法を用いて考え、説明している。</p>
* 大きな数の筆算のしかたを考えよう (教 p.126)	8	・ 3位数×1位数で、部分積に繰り上がりのある場合の筆算の仕方を理解し、計算する。	<p><b>知</b> 3位数×1位数で、部分積に繰り上がりのある場合の筆算の仕方を理解し、計算できる。</p>
	9	・ 3位数×1位数で、被乗数に空位がある場合の筆算の仕方を理解し、計算する。 * 4位数×1位数の筆算の仕方を考える。	<p><b>知</b> 3位数×1位数で、被乗数に空位がある場合の筆算の仕方を理解し、計算できる。</p>
4 かけ算のきまり (教 p.127)	10	・ 具体的な場面を通して、乗法の結合法則が成り立つことを理解する。	<p><b>知</b> 乗法の結合法則の意味を理解し、それを用いて計算を工夫することができる。</p>
5 かけ算と言葉の式や図 (教 p.128~129)	11	・ 具体的な乗法の場面を、言葉の式を用いて一般的にまとめる。	<p><b>知</b> 乗法の場面が、「1つ分の大きさ×いくつ分=全体の大きさ」という言葉の式に表されることを理解している。</p> <p><b>考</b> 乗法に関するいろいろな言葉の式を1つの言葉の式にまとめることができる。</p>
	12	・ 具体的な乗法の場面を、言葉の式やテープと数直線の図で表し、問題を解決する。	<p><b>知</b> 乗法の場面で、テープと数直線の図が表す意味を理解し、立式することができる。</p>
たしかめ問題 (教 p.130~131)	13	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p><b>知</b> 2、3位数×1位数の計算ができ、それを用いて問題を解決することができる。</p> <p><b>考</b> 2位数×1位数の計算方法を、分配法則をもとにして考え、説明している。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返</p>



			っている。
--	--	--	-------

\*算数たまでばこ

## 9 答えが2けたになるわり算 (教科書:p.132~133 時期:9月 配時:2時間)

### 〔単元の目標〕

除数が1位数で商が2位数になる除法について、数の仕組みに着目して計算の仕方を考えることができる。

**知** 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数になる計算の仕方を理解し、計算することができる。

**考** 10を単位とした数の見方や数の構成的な見方に着目し、除法の計算の仕方を考え、説明することができる。

**主** 除数が1位数で商が2位数になる除法の計算の仕方について、既習の学習を生かして考えようとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
I 答えが2けたになるわり算 (教 p.132~133)	1	・ 何十÷1位数で、十の位がわりきれる場合の計算原理や方法を理解し、計算する。	<b>知</b> 何十÷1位数の計算の仕方を理解し、計算できる。 <b>考</b> 10のいくつ分という見方に着目し、何十÷1位数の計算の仕方を考え、説明している。
	2	・ 2位数÷1位数で、位ごとにわりきれる場合の計算原理や方法を理解し、計算する。	<b>知</b> 2位数÷1位数の計算の仕方を理解し、計算できる。 <b>考</b> 2位数÷1位数の計算の仕方について、既習(何十÷1位数)の計算をもとに考え、説明している。 <b>主</b> 何十÷1位数について図などを用いて考えたことを振り返り、2位数÷1位数の計算にも生かそうとしている。

# 10 10000 より大きい数 (教科書:p.134~148 時期:9~10月 配時:10時間)

## 〔単元の目標〕

1億までの数について、数の構成、表し方、読み方などを理解するとともに、ある数の10倍や10でわった大きさについて理解する。

**知** 1億までの数の構成や表し方、読み方、順序、系列、大小について理解し、数を表したり、読んだりすることができる。また、ある数の10倍、100倍、1000倍の数や10でわった数の大きさについて理解する。

**考** 既習の数から類推して、大きな数の表し方、読み方を考えることができる。また、数を相対的にみるなど多面的に捉え、それをもとに大きな数の加法、減法の仕方を考えることができる。

**主** 身の回りから大きな数を見つけようとするなど、数の表し方や読み方を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 大きな数の表し方 (教 p.134~142)	1	<b>〔アプローチ〕</b> ・ 教 p.134 の写真を見て、オリンピック・パラリンピックに関する数字を読み、数に対する興味・関心を高め、本単元の見通しをもつ。 ・ 既習をもとに、一万の位までの数の構成や表し方、読み方を理解する。	<b>知</b> 一万の位までの数の構成や表し方、読み方を理解し、表したり、読んだりすることができる。 <b>考</b> 既習の数の表し方から類推して、一万の位までの数の表し方を考えている。 <b>主</b> 身の回りの数に進んで関わり、より大きな数の表し方や読み方を調べようとしている。
	2 3	・ 千万の位までの数の構成や表し方、読み方を理解する。	<b>知</b> 千万の位までの数の構成や表し方、読み方、相対的な大きさなどを理解している。 <b>考</b> 千の位までの数の構成から類推して万の位の構成について考えている。
	4	・ 1万より大きい数を、その構成をもとに、1000を単位として相対的にみて表す。	<b>知</b> 1000を単位として数を相対的にみて表すことができる。 <b>考</b> 数の仕組みをもとに、1000を単位とした数の相対的な見方について考えている。
	5	・ 1万より大きい数の数直線表示、順序、系列について理解する。また、1億の数の構成、表し方、読み方を理解する。	<b>知</b> 数直線上に表された数を読み取ったり、数直線上に数を表したりすることができる。また、1億の数の構成、表し方、読み方を理解している。

	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな数の大小比較の仕方を理解する。また、万を単位とした計算の仕方を理解する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 大きな数の大小比較の仕方を理解している。</p> <p><b>考</b> 数の相対的な大きさの見方を活用して、大きな数の計算の仕方を考えている。</p>
2 10倍した数や10でわった数 (教 p.143~145) * 身の回りから大きな数をさがそう (教 p.144)	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>ある数を10倍、100倍、1000倍した数について理解する。</li> <li>* 身の回りから大きな数を探し、大きな数に対する興味・関心を高める。</li> </ul>	<p><b>知</b> ある数の10倍、100倍、1000倍の数の大きさについて理解している。</p> <p><b>考</b> ある数を100倍した数は、ある数の10倍を10倍した数であると考え、説明している。</p>
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>一の位に0のある数を10でわった数について理解する。</li> </ul>	<p><b>知</b> ある数を10でわった数の大きさについて理解している。</p>
3 数の見方 (教 p.146)	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つの数を多面的にみて表す。</li> </ul>	<p><b>考</b> 1つの数を多面的にみて表すことができる。</p> <p><b>主</b> 数をいろいろな見方で表そうとしている。</p>
たしかめ問題 (教 p.147~148)	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 1億までの数の構成や表し方、読み方、順序、系列、大小について理解している。</p> <p><b>考</b> 1つの数のいろいろな見方と式表示とを関係付けて捉えることができる。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。</p>
ふくろう先生の なるほど算数教室3 (教 p.149)	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の諸課題に関わる数字を読み、SDGsについて算数の面から考える。</li> </ul>	<p><b>主</b> 世界の諸課題に関連する数字に興味・関心をもち、進んで調べている。</p>

\*算数たまたばこ

## 11 小数 (教科書:p.150~166 時期:10~11月 配時:12時間)

### 〔単元の目標〕

小数の構成や順序、系列、大小について理解するとともに、加法及び減法の計算の仕方を整数の計算の仕方をもとに考え、計算することができる。

**知** 小数の意味や表し方、構成、順序、系列、大小について理解し、端数部分の大きさを小数を用いて表すことができる。また、小数第一位までの小数の加法及び減法の計算をすることができる。

**考** 端数部分の大きさを表すとき、十進位取り記数法や等分したいいくつかの考えをもとに新たな単位(0.1)をつくり、そのいくつかで表すなど、拡張して考えることができる。また、小数を多面的に捉え、それを生かして加法及び減法の計算の仕方を考え、説明することができる。

**主** 小数を用いると、整数で表せない端数部分の大きさを表すことができるなどのよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 小数 (教 p.150~154)	1	<b>〔アプローチ〕</b> ・ 教 p.150 の写真を見て、小数が使われている場面について話し合い、新しい数に対する興味・関心を高める。 ・ 端数部分の大きさを表すのに小数が用いられることを知り、小数の表し方と読み方を理解する。	<b>知</b> 端数部分の小数での表し方や読み方を理解している。 <b>考</b> 端数部分の表し方について、十進位取り記数法をもとに類推的に考えている。
	2	・ 長さについて、複名数で表される数量を、小数を用いて単名数で表すことができることを理解する。 ＊ 身の回りから小数を探し、小数に対する興味・関心を高める。	<b>知</b> 複名数で表された長さを、小数を用いて単名数で表すことができる。 <b>主</b> 小数を用いると、長さを単名数で表すことができることのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。また、身の回りから小数をいろいろと見つけようとしている。
2 小数のしくみ (教 p.155~158)	3	・ 小数の位取りの仕組みや数の構成について理解する。また、小数の数直線上の表し方について理解する。	<b>知</b> 小数の十進構造を理解するとともに、数直線上に小数を表したり、表された小数を読み取ったりすることができる。
	4	・ 小数を、数の構成をもとに、0.1 を単位として相対的にみ	<b>知</b> 小数を 0.1 のいくつかとみて表すことができる。

		て表す。	考 小数を0.1のいくつか分で表す方法を考え、説明している。
	5	・ 小数の十進構造や順序、系列についての理解に基づいて、小数の大小比較ができる。	知 小数の大小比較の仕方を理解している。 考 小数の大小比較の仕方を考え、説明している。
3 小数の計算 (教 p.159~163)	6 7	・ 小数第一位までの小数の加法の計算の意味や原理、方法を理解し、計算する。	知 小数第一位までの小数の加法の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 0.1のいくつか分という見方に着目し、小数の加法の計算の仕方を考え、説明している。
	8	・ 小数第一位までの小数の加法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 小数第一位までの小数の加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 小数の仕組みと、小数の加法の筆算を関連付けて考えている。
	9	・ 小数第一位までの小数の減法の計算の意味や原理、方法を理解し、計算する。	知 小数第一位までの小数の減法の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 0.1のいくつか分という見方に着目し、小数の減法の計算の仕方を考え、説明している。
	10	・ 小数第一位までの小数の減法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 小数第一位までの小数の減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 小数の仕組みと、小数の減法の筆算を関連付けて考えている。
4 数の見方 (教 p.164)	11	・ 小数を多面的にみて表す。	考 1つの小数を多面的にみて表すことができる。 主 数をいろいろな見方で表そうとしている。
たしかめ問題 (教 p.165~166)	12	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 小数の表し方や構成、大小を理解し、多面的にみて表したり、加減の計算をしたりすることができる。 考 小数の加法の計算原理を、図や言葉で説明している。 主 単元の学習で新しく分かったこ

			とや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。
--	--	--	-----------------------------------

読み取る力をのばそう (教 p.167)	I	・ 小数の数の構成に着目して、ゲームの仕組みについて考察する。	<p><b>知</b> カードをひいてできた小数と整数 5 との差を比較すればよいことを理解している。</p> <p><b>考</b> 数の構成に着目して、カードをひいてできた小数 5.4 に勝てない理由を考え、説明している。</p>
ふくしゅう (教 p.168)	-	・ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-

\*算数たまたまこ

## 12 長さ (教科書:p.169~175 時期:11月 配時:5時間)

### 〔単元の目標〕

長さの単位「km」の意味や「m」との関係を理解し、それを用いて長さを表したり、目的に応じて計器を選択し、長さを測定したりすることができる。

**知** 巻尺の使い方や「道のり」、「きより」の用語、長さの単位「km」について理解し、それを用いて長さを表したり、長さの見当をつけて測定したり、長さの加減の計算をしたりすることができる。

**考** はかる物の特徴に着目し、適切な計器を選択することができる。

**主** 巻尺や km の単位のよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 長さのはかり方 (教 p.169~171)	1	<b>〔アプローチ〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>教 p.169 の場面をもとに、既習の 1m ものさしより長いものさしの必要性に気づき、長い長さのはかり方に対する興味・関心を高め、本単元の見通しをもつ。</li> <li>巻尺の必要性や目盛りの読み方、測定の仕方を理解する。</li> </ul>	<b>知</b> 巻尺の必要性や目盛りの読み方、測定の仕方を理解している。
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>およその見当をつけ、巻尺を用いていろいろな物の長さを測定するとともに、そのよさを理解する。</li> </ul>	<b>知</b> 巻尺を用いて身の回りの物の長さを測定することができる。 <b>主</b> 巻尺を用いると、長い物や曲がった物の長さをはかれるという巻尺のよさに気づいている。
2 キロメートル (教 p.172~173)	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「道のり」、「きより」の用語とその意味、長さの単位「km」について知り、1km=1000m の関係をもとに、適切な単位を選んで長さを表現する。</li> </ul>	<b>知</b> 「道のり」と「きより」の意味の違いや、単位「km」と 1km=1000m の関係を理解し、目的に合わせて適切な単位で長さを表現するとともに、km、m で表された長さの加減の計算ができる。 <b>主</b> 長さの単位「km」のよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。
たしかめ問題 (教 p.174~175)	4 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟するとともに、1km の量感を養い、</li> </ul>	<b>知</b> 「道のり」と「きより」の意味、巻尺の目盛りの読み方や 1km=1000m の関係を理解するとと



<p>* 長さについて調べよう (教 p.175)</p>		<p>日常生活に生かす。</p> <p>* 校庭を1km 歩いたり、避難所までの道のりやかかる時間を調べたりする。</p>	<p>もに、適切な単位を選択して長さを表すことができる。</p> <p><b>考</b> はかる物の特徴に着目し、巻尺を用いると測定しやすい場面を適切に判断している。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。また、1km を歩く活動を通して1km の量感を養い、生活に生かそうとしている。</p>
-----------------------------------	--	---	---

\*算数たまたばこ

# 13 分数（教科書:p.176～189 時期:11～12月 配時:9時間）

## 〔単元の目標〕

分数の意味と表し方や単位分数のいくつかで大きさを表すこと、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考え、簡単な場合の分数の加法、減法の意味について理解し、計算することができる。

**知** 1m や1L を等分してできる部分の大きさを表すのに分数を用いることを知り、単位分数のいくつかで大きさを表すことができることを理解している。

和が1までの同分母の真分数どうしの加法及び減法の意味や計算の仕方について理解し、計算することができる。

**考** 単位分数に着目し、分数の大小比較や、簡単な加法及び減法の仕方を考え、説明することができる。

**主** 分数の意味や分数によって表すことのよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 分数 (教 p.176～181)	1	〔アプローチ〕 ・ テープを等分する場面から既習の分数の表し方を振り返り、分数を用いた長さの表し方について関心をもつ。 ・ 1m の $\frac{1}{4}$ の長さを $\frac{1}{4}$ m と表すことを理解する。	<b>知</b> 分数を用いた長さの表し方について理解し、1m を等分してできる1つ分の大きさを、分数を用いて表すことができる。 <b>主</b> 生活の場面から、分数を用いた長さの表し方について関心を持ち、分数の意味や表し方について考えようとしている。
		・ 1m を $n$ 等分したいいくつかの長さや、1L を $n$ 等分したいいくつかのかさの表し方を理解する。また、「分母」、「分子」の用語とそれらの意味を理解する。	<b>知</b> 1m や 1L を $n$ 等分したいいくつかの長さ及びかさを分数で表すことができる。また、「分母」、「分子」の用語とそれらの意味を理解している。
	3	* 1m のテープを使って分数のものさしをつくり、いろいろな物の長さを測定し、分数を用いて表す。 * 2m、4m の $\frac{1}{4}$ は $\frac{1}{4}$ m ではないことから、量分数についての理解を深める。	<b>主</b> 身の回りの物の長さに対して、様々な単位の分数のものさしを使って正確に測定しようとしたり、分数を用いて表そうとしたりしている。また、「2m の $\frac{1}{4}$ 」や「4m の $\frac{1}{4}$ 」の長さについて、図などを手掛かりにして、考えようとしている。
* 分数を使ってものさしを作ろう (教 p.181)  * もとの大きさがちがうと… (教 p.181)			
2 分数の大きさ (教 p.182～183)	4	・ 数直線を用いて分数の大きさについて調べ、同分母分数の大小比較の仕方や $\frac{5}{5}=1$ であることを理解する。	<b>知</b> 同分母分数の大小比較ができる。 <b>考</b> 単位分数の個数に着目し、分子の大きさを比べることで、分数の

			大きさを判断することができる。
	5	・ 数直線を用いて1より大きい分数の大きさについて調べ、1より大きい分数も単位分数のいくつ分で表せることを理解する。	知 1より大きい同分母分数を単位分数のいくつ分で表すことができる。
3 分数と小数 (教 p.184)	6	・ 数直線を用いて分数と小数の関係を調べ、 $1/10=0.1$ であることを理解し、分数と小数、分数と整数の大小を比較をする。	知 $1/10$ または $0.1$ を単位とした分数や小数の大小比較ができる。
4 分数の計算 (教 p.185~187)	7	・ 同分母の真分数どうしの加法の意味や計算の仕方について理解し、説明することができる。	知 同分母の真分数どうしの加法の計算の仕方を理解し、計算することができる。 考 同分母の真分数どうしの加法の意味や計算の仕方について、単位分数のいくつ分とみて整数や小数の加法と関係付けて考えている。
	8	・ 同分母の真分数どうしの減法の意味や計算の仕方について理解し、説明する。また、真分数どうしの和が1までの加法とその逆の減法の計算の仕方を理解し、計算する。	知 同分母の真分数どうしの減法の計算の仕方や和が1になる加法とその逆の減法の計算の仕方を理解し、計算することができる。 考 同分母の真分数どうしの減法の意味や計算の仕方について、単位分数のいくつ分とみて、整数や小数の減法と関係付けて考えている。
たしかめ問題 (教 p.188~189)	9	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 分数の意味や表し方について理解し、同分母分数における大小比較や加法及び減法の計算をすることができる。 考 同分母の真分数どうしの加法の計算の仕方について、図などを用いて説明している。 主 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。

\*算数たまてばこ

## 14 三角形と角（教科書：p.190～201 時期：12月 配時：9時間）

### 〔単元の目標〕

辺の長さに着目して三角形を分類し、二等辺三角形や正三角形の定義、性質を理解するとともに、それらを作図することができる。

**知** 二等辺三角形や正三角形の定義や性質を理解し、それらを用いて三角形を弁別したり、作図したりすることができる。

**考** 図形の構成要素に着目して、二等辺三角形や正三角形の特徴を見いだすことができる。

**主** 身の回りから二等辺三角形や正三角形が使われている場面を見つけようとしたり、二等辺三角形や正三角形を敷き詰める活動をたのしみ、平面のひろがりや模様の美しさに気づいたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 いろいろな三角形 (教 p.190～193)	1 2	〔アプローチ〕 ・ 教 p.190 の写真を見て、三角形に対する興味・関心を高め、本単元の見通しをもつ。 ・ ストローでつくったいろいろな三角形を分類する活動を通して、「二等辺三角形」、「正三角形」の用語とそれらの定義を理解し、弁別する。	<b>知</b> 「二等辺三角形」、「正三角形」の用語とそれらの定義を理解している。 <b>考</b> 辺の長さに着目して三角形を分類し、それをもとにそれぞれの三角形の特徴を見いだしている。
2 三角形のかき方 (教 p.194～196)	3	・ コンパスとものさしを用いた二等辺三角形の作図の仕方を理解する。	<b>知</b> 二等辺三角形のかき方を理解し、コンパスとものさしを用いて作図することができる。
* 二等辺三角形や正三角形をつくろう (教 p.195)	4	・ コンパスとものさしを用いた正三角形の作図の仕方を理解する。 * 折り紙を用いて二等辺三角形や正三角形をつくり、そのようにしてつくることができるわけを考える。	<b>知</b> 正三角形のかき方を理解し、コンパスとものさしを用いて作図することができる。 <b>主</b> 二等辺三角形の作図の仕方を振り返り、それを正三角形の作図に生かそうとしている。
	5	・ 円とその半径を用いると、二等辺三角形や正三角形を作図することができることを理解する。	<b>知</b> 円とその半径を用いた二等辺三角形や正三角形の作図の仕方を理解する。 <b>考</b> 円とその半径を用いると二等辺三角形や正三角形が作図できるわけを、その図形の特徴や円の性質に着目して考え、説明し

			ている。
3 三角形の角 (教 p.197~198)	6	・「角」の用語とその意味を理解し、角の大きさは辺の開き具合で決まることを理解する。	<b>知</b> 「角」の用語とその意味や、角の大きさは辺の開き具合で決まることを理解している。
	7	・二等辺三角形と正三角形の角の大きさに関する性質を理解する。	<b>知</b> 二等辺三角形や正三角形の角の性質を理解している。 <b>考</b> 二等辺三角形や正三角形を観察したり、折ったり重ねたりして、角の性質を帰納的に見いだしている。
4 三角形のしきつめ (教 p.199)	8	・合同な二等辺三角形や正三角形で敷き詰め模様を作り、図形に対する感覚を豊かにする。	<b>考</b> 合同な二等辺三角形や正三角形を敷き詰めた模様の中から、いろいろな形を見いだしている。 <b>主</b> 二等辺三角形や正三角形を敷き詰める活動をたのしみ、平面のひろがりや模様の美しさに気づいている。
たしかめ問題 (教 p.200~201)	9	・基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<b>知</b> 二等辺三角形や正三角形の定義、性質を理解し、作図することができる。また、角の大きさを比べることができる。 <b>考</b> 図形の構成要素に着目し、三角定規を組み合わせると二等辺三角形になる理由を説明している。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。

ふくしゅう (教 p.202)	-	・復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-
* どんな計算 するのかな (教 p.203)	1	* 具体的な問題場面で、どんな計算になるか判断し、問題を解決する。	<b>考</b> 数量の関係を正しく捉え、既習事項を活用して問題を解決することができる。

\*算数たまてばこ

## 15 重さの単位 (教科書:p.204~216 時期:1 月 配時:9 時間)

### 〔単元の目標〕

身の回りにある物の重さに関心をもち、重さの比べ方を考え、重さの単位、測定の意味を理解し、計器を適切に選択して測定したり、長さやかさと重さの単位を関連付けて統合的に考えたりすることができる。

**知** 重さの単位「g」、「kg」、「t」とその関係を理解し、はかりを用いて重さを測定することができる。

**考** 重さも長さやかさと同じように、単位を決めて数値化できると考えたり、長さやかさ、重さの単位の間を、接頭語に着目して統合的に考えたりすることができる。

**主** 普遍単位を用いて重さを表すよさに気づき、重さの表し方やはかりを用いた測定を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 グラム (教 p.204~207)	1	〔アプローチ〕	<b>知</b> 重さの単位に「g」があり、これを用いて重さを表すことを理解している。
	2	・ いろいろな物を手に持って重さを比べ、重さの比べ方に関心をもち、本単元の見通しをもつ。 ・ 直接比較、間接比較や任意単位による測定を通して重さを量として捉え、重さの普遍単位「g」を知る。	<b>考</b> 重さも長さやかさと同じように、単位を決めて数値化できると考えている。 <b>主</b> 普遍単位を用いて重さを表すことのよさに気づいている。
2 はかり (教 p.208~212)	3	・ 重さを測定する計器としてはかりがあることを知り、はかりの目盛りの読み方、使い方を理解し、はかりを用いて重さを測定する。	<b>知</b> はかりの目盛りの読み方や使い方を理解し、秤量 1kg のはかりを用いて重さを測定することができる。 <b>主</b> はかりを用いていろいろな物の重さを測定しようしたり、生活や学習にはかりを生かそうしたりしている。
	4	・ 重さの単位「kg」を知り、1kg=1000g の関係や秤量4kg のはかりの目盛りの読み方や使い方を理解する。	<b>知</b> 1kg=1000g の関係を理解し、秤量 4kg のはかりの目盛りを読み取ることができる。
	5	・ 1kg の量感を養うとともに、計器を選択して身の回りのいろいろな物の重さを測定する。	<b>知</b> 重さの見当をつけ、適切な計器を選択して重さを測定することができる。
	6	・ 重さについても加法、減法が適用できることを理解し、重さに	<b>知</b> 重さに関する加減の計算の仕方を理解し、計算できる。

		関する問題を解決する。	<b>考</b> 重さに関する加減の計算を適用し、工夫して重さの問題を解決している。
おうちで算数 (教 p.212)	-	・ 生活の中で、いろいろな物の重さを工夫してはかる。	-
3 トン (教 p.213)  * 小さな重さの単位 (教 p.213)	7	・ 大きな重さの単位「t」を知り、 $1t=1000kg$ の関係を理解する。 * 日常で使われる単位「mg」について知る。	<b>知</b> 重さの単位「t」と $1t=1000kg$ の関係について理解している。
4 単位のしくみ (教 p.214)	8	・ 長さ、かさ、重さのそれぞれの単位の関係を整理し、理解を深める。	<b>考</b> 長さ、かさ、重さの単位について、上位単位は下位単位の何倍かを整理し、接頭語に着目しながら単位の関係について統合的に考えている。
たしかめ問題 (教 p.215~216)	9	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<b>知</b> 重さの単位「g」、「kg」、「t」とその関係について理解し、はかりの目盛りを読んだり、重さの加減の計算をしたりすることができる。 <b>考</b> 重さも長さやかさと同じように、単位のいくつかで数値化できると考え、説明している。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。

ふくろう先生の なるほど算数教室4 (教 p.217)	-	・ いろいろな重さの分銅を組み合わせて様々な重さをつくる活動を通して、順序よく場合を調べる方法を考える。	<b>考</b> 目的の重さをつくるのに、すでにつくった重さを活用したり、順序よく分銅を変えたりして考えることができる。 <b>主</b> 限られた数で様々な数が表せることの面白さに気づいている。
プログラミングに ちょうせん!② (教 p.218~219)	-	・ 単位を変換したときの数値を正しく表示するには、どのようなプログラムをつくれればよいのかを、単位の仕組みをもとに考える。	<b>考</b> 単位の仕組みをもとに、どのようなプログラムをつくれればよいかを考え、説明している。 <b>主</b> プログラムを使えば、数を入力するだけで何度でも簡単に単位

* 身の回りの プログラミング		* 生活の中でプログラムが使わ れている場面を知り、興味・関 心を高める。	が変換した値を調べられるとい うプログラムのよさに気づいてい る。
ふくろう先生の なるほど算数教室5 (教 p.220)	-	・ 算数を仕事に生かしている方 へのインタビューを読み、算数 への学習意欲を高める。	<b>主</b> 算数が仕事や生活に生かされ ていることを知り、算数の学習に 対する意欲を高めている。

\*算数たまたばこ



## 16 □を使った式（教科書:p.221～229 時期:1～2月 配時:5時間）

### 〔単元の目標〕

未知の数量を記号の□を用いて表し、数量の関係を式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。

**知** □を用いると式表示が容易になり、数量の関係が明確になることを理解し、□を用いて式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。

**考** 具体的な場面を通して、未知の数量を□として式表示し、数量の関係を捉えたり、□に当てはまる数の求め方を考えたりすることができる。

**主** □を用いると式表示が容易になり、数量関係が明確になるというよさに気づき、学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 たし算とひき算 (教 p.221～224)	1	・ 具体的な場面について、加法で表される数量関係を□を用いて式に表し、□に数を当てはめたり、線分図を用いたりして、□に当てはまる数を求める。	<p><b>知</b> 加法の問題場面で、未知の数量を□として数量の関係を式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。</p> <p><b>考</b> 加法の問題場面で、□に当てはまる数の求め方を図をもとに考えたり、順に数を式に当てはめたりして、説明している。</p> <p><b>主</b> □を用いることのよさに気づき、立式に□を用いようとしている。</p>
	2	・ 具体的な場面について、減法で表される数量関係を□を用いた式に表し、□に数を当てはめたり、線分図を用いたりして、□に当てはまる数を求める。	<p><b>知</b> 減法の問題場面で、□を用いて式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。</p> <p><b>主</b> 加法の問題場面で□を用いて立式したことや図を用いたことを振り返り、減法でもそれらを生かそうとしている。</p>
2 かけ算とわり算 (教 p.225～227)	3	・ 具体的な場面について、乗法で表される数量関係を□を用いた式に表し、図を用いたりして、□に当てはまる数を求める。	<p><b>知</b> 乗法の問題場面で、□を用いて式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。</p> <p><b>考</b> 乗法の問題場面で、□に当てはまる数の求め方を図をもとに考え、説明している。</p>
	4	・ 具体的な場面について、除法で表される数量関係を□を用いた式に表し、図を用いたりし	<p><b>知</b> 除法の問題場面で、□を用いて式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。</p>

		て、□に当てはまる数を求める。	<b>主</b> 乗法の問題場面で□を用いて立式したことや図を用いたことを振り返り、除法でもそれらを生かそうとしている。
たしかめ問題 (教 p.228~229)	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。</li> </ul>	<b>知</b> 具体的な場面について、未知の数量を□として数量関係を式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。 <b>考</b> 図や式の表す意味を読み取り、式と図を結び付けることができる。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。
暗算 (教 p.229)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>2位数×1位数の乗法を暗算で計算する。</li> </ul>	<b>知</b> 2位数×1位数、何百何十×1位数の計算が暗算でできる。 <b>考</b> 数の構成に着目して、2位数×1位数、何百何十×1位数の暗算の仕方を考え、説明している。

## 17 2けたの数をかける計算 (教科書:p.230~241 時期:2月 配時:9時間)

### 〔単元の目標〕

2、3位数に2位数をかける乗法について、既習の乗法をもとに計算の仕方を考え、筆算で計算することができる。

**知** 2、3位数×2位数の計算の仕方や筆算の仕方を理解し、計算することができる。また、被乗数や乗数が10倍になると積も10倍になることを理解するとともに、乗法の結合法則や交換法則を活用して、計算を工夫することができる。

**考** 2、3位数×2位数の計算の仕方や筆算の仕方を、数の構成や既習の乗法に関して成り立つ性質をもとに考え、説明することができる。

**主** 乗法の計算の仕方について、既習の学習を生かして考えようとしたり、数範囲をひろげて桁数の多い計算を考えようとしたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 何十をかける計算 (教 p.230~232)	1	〔アプローチ〕 ・ 教 p.230 の場面をもとに、何十をかける計算に対する興味・関心を高め、本単元の見通しをもつ。	<b>知</b> 何十をかける乗法の計算の仕方を理解し、計算できる。 <b>考</b> 数の構成に着目し、何十をかける計算の仕方を、既習の計算をもとに考え、説明している。
		・ 何十をかける乗法の計算原理や方法を理解し、計算する。	
2 2けたの数をかける計算 (教 p.233~236)	2 3	・ 2位数×2位数で、部分積が2位数になる乗法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	<b>知</b> 2位数×2位数の計算の仕方や筆算の仕方を理解し、計算できる。 <b>考</b> 数の構成に着目し、2位数×2位数の計算の仕方を、既習の計算をもとに考え、説明している。 <b>主</b> 2位数×2位数の計算の仕方について、既習の学習を生かして考えようとしている。
	4	・ 2位数×2位数で、部分積が3位数になる乗法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	<b>知</b> 部分積が3位数になる2位数×2位数の筆算の仕方を理解し、計算できる。 <b>主</b> 2位数×2位数の乗法の学習をもとに、3位数の乗法もできるのかと数範囲を拡張させ、新しい問題を見いだしている。
	5	・ 3位数×2位数の乗法の計算	<b>知</b> 3位数×2位数の筆算の仕方

		原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	<p>を理解し、計算できる。</p> <p><b>考</b> 3 位数×2 位数の計算の仕方を、既習の乗法の計算をもとに考え、説明している。</p>
3 計算のきまり (教 p.237)	6	・ 被乗数や乗数、積の数量の関係に着目し、乗法のきまりを見つける。	<p><b>知</b> 被乗数や乗数が 10 倍になると積も 10 倍になることを理解し、工夫して計算することができる。</p> <p><b>考</b> 被乗数や乗数と積の関係から、乗法において成り立つきまりを見だし、説明している。</p>
4 計算のくふう (教 p.238~239)	7	・ 2 位数×何十や 1 位数×2 位数、何十×2 位数の簡便な筆算の仕方を理解し、計算する。	<p><b>知</b> 乗法の手際のよい筆算の仕方を理解し、計算できる。</p> <p><b>考</b> 数の構成に着目したり乗法の交換法則を活用したりして、手際のよい筆算の仕方を考え、説明している。</p>
	8	・ 3 口の数の乗法を、結合法則や交換法則を活用し、工夫して計算する。	<p><b>知</b> 3 口の数の乗法の手際のよい計算方法を理解し、計算することができる。</p> <p><b>考</b> 乗法の結合法則や交換法則を活用して、3 口の数の乗法を手際よく計算する方法を考えている。</p>
たしかめ問題 (教 p.240~241)	9	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p><b>知</b> 2 位数をかける計算ができ、それを用いて問題を解決することができる。</p> <p><b>考</b> 2 位数×2 位数の筆算の仕方を、数の構成に着目して説明している。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。</p>

## 18 倍とかけ算、わり算 (教科書:p.242~245 時期:2~3 月 配時:4 時間)

### 〔単元の目標〕

比較量が基準量の何倍かを求める場合や、基準量を求める場合に除法が用いられることを理解する。

**知** 整数の乗法において、基準量、倍、比較量の関係を理解するとともに、何倍かを求めたり、基準量を求めたりするときに除法が用いられることを理解する。

**考** 比較量を求めるときに乗法が用いられることや、何倍かを求めたり、基準量を求めたりするときに除法が用いられることを、図などを用いて考え、説明することができる。

**主** 図や□を使った式を用いると数量の関係が捉えやすくなることに気づき、学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
I 倍とかけ算、わり算 (教 p.242~244)	1	・ 基準量を何倍かした大きさを求めるときは乗法が用いられることの理解を深める。	<b>知</b> 比較量を求めるときに乗法が用いられることを理解している。 <b>考</b> 比較量を求める計算の仕方を考え、図や言葉で説明している。
	2	・ 比較量が基準量の何倍かを求めるときは除法が用いられることを理解する。	<b>知</b> 何倍かを求めるときに除法が用いられることを理解している。 <b>考</b> 何倍かを求めるときに除法が用いられることを、図や□を使った式を用いて説明している。
	3	・ 基準量を求めるときは除法が用いられることを理解する。	<b>知</b> 基準量を求めるときに除法が用いられることを理解している。 <b>主</b> 何倍かを求めるときに、図や□を使った式を用いたことを振り返り、基準量を求めるときに生かそうとしている。
たしかめ問題 (教 p.245)	4	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<b>知</b> 比較量を求めるときには乗法、倍や基準量を求めるときには除法が用いられることを理解している。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。

## そろばん（教科書:p.246～248 時期:3 月 配時:3 時間）

### 〔単元の目標〕

そろばんの仕組みを理解し、そろばんによって数を表したり、簡単な加法及び減法の計算をしたりすることができる。

**知** そろばんの構造、部分の名称、数の表し方、用語の意味などについて理解し、そろばんを用いて数を表したり、簡単な加法及び減法の計算をしたりすることができる。

**考** そろばんで数を表したり、計算したりするときに、そろばんの仕組みと十進位取り記数法の仕組みを関連付けて考えることができる。

**主** そろばんが十進位取り記数法の仕組みをもとに作られていることのよさに気づき、そろばんで数を表したり計算したりしようとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
そろばんのしくみ (教 p.246) 数のおき方とはらい方 (教 p.247)	1	・ そろばんの構造、部分の名称、数の読み方、表し方、用語の意味について理解する。	<b>知</b> そろばんによる数の読み方や表し方を理解している。
たし算とひき算 (教 p.247～248)	2	・ 繰り上がりのない加法と繰り下がりがない減法について、そろばんによる計算の仕方を理解し、計算する。 ・ 5の合成、分解をともなう加法と減法について、そろばんによる計算の仕方を理解し、計算する。	<b>知</b> 繰り上がりのない加法と繰り下がりがない減法について、そろばんによる計算の仕方を理解している。また、5の合成、分解をともなう加法及び減法について、そろばんによる計算の仕方を理解している。 <b>考</b> そろばんを用いた加法及び減法の計算の仕方を筋道立てて説明している。
	3	・ 10の合成、分解をともなう加法と減法について、そろばんによる計算の仕方を理解し、計算する。 ・ 万の単位を含む簡単な加法及び減法や、1/10の位までの小数の簡単な加法及び減法について、そろばんによる計算の仕方を理解し、計算する。	<b>考</b> そろばんと十進位取り記数法の仕組みを関連付けて考えている。 <b>主</b> そろばんで数を表したり、計算したりするときに十進位取り記数法の仕組みと関連付けようとする。

3年のふくしゅう	1	・ 3学年の復習問題に取り組み、	-
----------	---	------------------	---

(教 p.249~251)	2	既習事項の理解を確実にする。	
---------------	---	----------------	--